

令和5年度 保育園の自己評価

テーマ「子ども達が安心して生活できる保育園づくりを目指して」

○当園が目指す保育とは？

- ・日々子ども達の姿から保育者同士で語り合い、一人一人の思いを大切に、「たのしい！」「はっけん！」「やってみたい！」を叶える保育を紡ぎ出すこと。
- ・子ども達が安心感を持って自己発揮し、友だちや保育者と生活や遊びを通して経験を積み重ねていける保育。

※1



○その保育を実現するための課題

- ・子ども理解（未熟な存在から有能な学びとしての子ども理解）
- ・子どもの育ちを保護者と共有する

○課題改善に向けての取り組み

- ・5歳児午睡時間を利用した活動。
- ・0,1,2歳児の保護者参加の行事（親子ピクニック）※1
- ・祖父母参観・卒園児交流（成人祝い）の再開
- ・コドモンの導入（おたより帳から写真添付付き配信に切り替えていく）
- ・法人勉強会での外部講師依頼（※2、※3）



※2



※3



○課題改善の中から見えてきたこと、令和6年度の取り組みへのバトン

今年度からおたより帳のやりとりを1歳児クラスは11月～、0歳児クラスは3月～コドモン（ICT）での配信へと切り替えていくなど保育士にも保護者にも無理なくシフトチェンジしていった（2歳児クラスは今年度までのおたより帳となるためコドモンでの配信は6年度から開始予定となる）日々子どもの様子を写真を添付することで保育園での様子がより良く伝えやすく・伝わりやすくなったと感じる。

昨年度の課題としてポートフォリオの途中経過を保護者に手に取ってもらう事で、ファイルのイメージが出来積極的な関りがもてるようにと考えていたが、実際にはその機会を上手く作ることが出来なかった。保護者が閲覧できる工夫を改めて考え、簡単なアンケートを行うなど子育ての共有や保育士の励みになるよう充実したものにしていきたい。

かりゆし保育園では0,1,2歳児の子ども達にとって出来る限り生活リズムを一定に保つことが見通しをもって安心した保育園生活を送ることに繋がり、愛着・信頼関係を0,1,2歳児で育むことで3,4,5歳児に向けて個を発揮す土台作りとなるとの考えから大きな行事の参加は行っていませんでしたが、今年度初めて未満児の保護者参加行事として「親子ピクニック」を行い好評を得ました。次年度も子どもに無理なく親子で楽しめる内容を検討し保護者同士のコミュニケーションにつながるよう計画していきたい※1。また、コロナ禍で自粛していた祖父母参観や卒園児交流も再開！久しぶりに卒園児（8期生）の成人祝いを行い、成長した子ども達との交流ができ保育士も励みとなった。

5歳児の午睡時間を利用した活動を今年度の子どもの状況を見て例年より早く10月から行えたことは良かった。しかし、反省点として普段の活動がままならなかった部分もあり、次年度は子どもの状況を見ながら色々な体験ができるよう計画的に活動したい。

法人勉強会では外部講師を年2回招いた（9月：汐見俊幸先生（※2）、1月：羽地知香先生（※3））

9月の研修は子育て・保育講演会で保護者の参加も受け付けた。子ども達の「いま」を充実させ、できないではなく子どもの人格を尊重しプロセスを大事にすることで「子どもが自ら育っていく姿」をお手伝いする事の大切さを学んだ。1月の研修は童心に返り、自然環境の中に身を置くことで遊びの中から得られる事の多さに気づく事ができた。非認知能力が育つことで認知能力が育つ・子どものあそびには意味があるんだと職員自身体験することで「こども理解」につながる事ができ両園職員共に学びを深める事ができた。自然物を活かした保育にも意識が向くようになってきた

令和6年度は令和5年度同様に「対話」から子どもたちとの信頼関係を深め 遊びの展開や生活を充実させていくためにも「共感と対話 よく観るよく聴く」をテーマにおき、子どもたちが自ら育つため、子ども理解を深めるために職員間での「対話」を大切にしながら「よく観る目」と「よく聴く」力を磨いていきたい。